

介護事業部 在宅事業部

症例概要 利用者氏名：女性 100歳 要介護5

病名：#1穿孔性結石性胆嚢炎 #2慢性腎不全 #3心不全 #4脳梗塞

#5左下肢蜂窩織炎

ご主人が他界されてから、石狩市で独居で生活。意識消失や排泄管理に問題があり、サ付住宅花びりかに2017年に入居。ホットライン21、訪問看護ポプラ、訪問介護ほっと館、ふれあいDSを利用して生活するも、2024年11月に穿孔性胆嚢炎となり、東徳洲会病院に救搬。

食事がとれず点滴投与、車椅子での移動がメインで歩行器歩行は可能だが実用性はない状況。療養病床への転院も検討されたが、ご家族より延命は希望せず、転倒リスクが高いが住み慣れた花びりかに戻ることを希望され、栄養管理、排泄管理、活動性、移動動作の安全を全事業所で取り組み、現在、自慢の詩吟を歌えるまでの体力が回復し、めでたく100歳をみんなで迎え、食を楽しみながら笑顔多く過ごすことができるようになった症例。

内 容

1980年代にご主人を亡くされて以降、石狩市内で35年間一人暮らしを続けていましたが、戸締まりの忘れや意識消失を繰り返し、排泄管理が困難となり、自宅生活が難しくなったため、サ付住宅花びりかへ入居されました。お子さんはおらず、姪御さんがキーパーソンとして支援されています。入居後は、花川病院訪問診療、居宅介護支援事業所ホットライン、訪問看護ポプラ、訪問介護ほっと館、ふれあいDSを利用して頂きながら穏やかに生活されていました。

2024年11月、穿孔性胆嚢炎で緊急入院。手術は不応で、今後発熱や腹膜炎のリスクがあり、食欲も低下、主に車椅子での生活となりました。主治医からは療養病床や特養の提案がありましたが、姪御さんとご本人は「延命治療は望まず、住み慣れた花びりかに戻りたい」と希望され花びりか退院となりました。

花びりかでの生活再スタートにあたり、ホットライン、訪問診療、訪問看護、サ付住宅花びりかと花びりか管理栄養士、訪問介護ほっと館、ふれあいDSでカンファレンスを実施しケアについて話し合いました。詩吟をうたい、大好きなお菓子を食べ、住み慣れた花びりかで穏やかに暮らしてもらうことを目標に、ケアを開始。臥床していることが多く、ほとんど会話はなく、全く食欲もなく、花びりか栄養科で作成してくれたエンシュアのアイスで最低限の基礎代謝量程度の栄養をとっていました。サ付住宅花びりかで食事内容を日々観察し、煮物や佃煮など甘く煮たおかずがあればご飯がすすむことを発見。訪問介護ほっと

館の買い物支援や姪御さんで煮豆などを購入し、また花びりか栄養科でも佃煮など煮物を食事に添え、そこから食事がすすむようになり、現在全量摂取できるまでに食欲回復しました。

日々の細かい体調や排便管理はふれあいDS、サ付住花びりか、訪問看護ポプラでLINEworksで情報共有。訪問看護ポプラのセラピストが転倒防止のための環境整備と車椅子の調整、立ち上がりやトイレ動作維持のためのリハビリテーションを実施。体力がついてきて活動量が次第に伸び、安全な車椅子移乗と自操ができるようになりへと進展していきました。ふれあいDSでは、楽しめるレクや個別リハを行い、会話や笑顔をひきだすことに重視したケアを実施しました。

現在、食事や大好きなお菓子が食べられるようになり、体力がつき車椅子をご自身でこぎ、好きな場所で過ごされ、職員とレクや詩吟を楽しまれ、社会参加もして過ごすことができるようになりました。在宅事業部全事業所でLINEworksを活用し情報共有をしながらケアを展開し、笑顔を取り戻すことができ、100歳を迎えこれからも笑顔多く過ごしていただけるようTeamでケアしていきます。